

## 令和3年度第1回徳島県周産期医療協議会 議事録

### 1 日 時

令和3年7月27日（火）午後7時から午後9時まで

### 2 方 法

オンライン会議（Zoom）

### 3 出席者

#### （1）委員（15名）【五十音順・敬称略】

今川 玲代，苛原 稔（会長），加地 剛，亀井 香（代理：久次米 孝浩），  
木下 ゆき子，近藤 秀治（代：市原 裕子），斎藤 誠一郎  
佐藤 純子，田山 正伸，中川 竜二，春名 充，福井 理仁，船戸 豊子，  
前川 正彦，宮崎 達志，森定 奈津美

#### （2）オブザーバー

小谷 裕美子，森岡 久尚

#### （3）事務局等

県保健福祉部（健康づくり課，医療政策課・広域医療室），消防保安課，  
病院局，次世代育成青少年課，各保健所等

### 4 会議次第

#### （1）開会

#### （2）議事

①乳児・新生児死亡率の状況とその対策について

②令和2年度周産期医療協議会専門部会報告について

・母子保健専門部会報告

・災害対策部会報告

・妊産婦メンタルケア部会報告

・産科医・小児科医の働き方改革を含めた医師確保のあり方検討部会報告

③新生児マススクリーニング検査について

④その他

#### （3）閉会

### 5 議事の概要

#### （1）乳児・新生児死亡の状況とその対策について

（事務局）令和2年人口動態統計（概数）について【資料1】

（加地部会長）今回増えた原因についてこれから検討させていただき原因を究明したい。

（会長）徳島県の総分娩数、出生数が少ないため、1例2例増加すると率は跳ね上がる。  
増加の原因については、詳細に検討いただき次回の会議にて報告いただきたい。

## **(2) 令和2年度周産期医療協議会専門部会報告について**

### **○母子保健専門部会より**

(加地部会長) 令和2年度事業実施結果及び令和3年度事業計画について説明【資料2】

(会長) しっかり検討していただく。また、研修についてはオンラインでの開催なので、積極的に参加いただきたい。

### **○災害対策部会より**

(前川部会長) 令和2年度事業実施結果及び令和3年度事業計画について説明【資料3】

(会長) マニュアルの改訂はどの部分か。

(前川部会長) 医療機関名称等の変更である。

(会長) 小児周産期のリエゾン研修は、できるだけ多くの方に参加していただきたい。

### **○妊産婦メンタルケア部会より**

(春名部会長) 令和2年度事業実施結果及び令和3年度事業計画について説明【資料4】

(会長) 産後うつで自殺した症例はないようだが、軽症の方を検証できる仕組みは考えているか。

(春名部会長) 産後の相談や軽度産後うつの診療に協力していただける心療内科、精神科の先生方のリストアップをしていきたいと思っている。

(会長) 具体的な数値があれば励みになると思うので、その点も考えていただきたい。

(委員) 小児科には2ヶ月の予防接種前から様々な症状で受診される方が増えている。(小児科受診時) チェック票(母親用)の活用が十分ではないので、活用を進めていけるようにしていきたい。

### **○産科医・小児科医の働き方改革を含めた医師確保のあり方検討部会より**

(部会長・オブザーバー)

令和2年度事業実施結果及び令和3年度事業計画について説明【資料5】

(会長) アンケートの実施が計画されているが、働き方改革について、医療業界で動きはあるのか。

(委員) 複雑なのは大学病院の仕組みであり、厚労省などからセミナーが開催されている。労働時間の規定を守るためには、今の勤務形態では無理なところがある。そのあたりの準

備を慎重にしている。勤務医に関しては960時間を超える所はないと思うが、産科医、小児科医に関しては、救急と当直の調整をどのようにしていくかが問題になると思う。

(会長) 県内の産科医療、小児科医療の働き方改革を、国の方針に合わせるために、どのように工夫すればよいか、小児科医療、産科医療が崩壊する可能性もあるので、県の支援をもらいながら相談していかないと難しいと思う。アンケートデータを踏まえて検討していきたい。

### (3) 新生児マススクリーニング検査について

(事務局) 新生児マススクリーニングに係る検討会における報告の説明【資料6】

(オブザーバー) 県内のスクリーニング結果を還元する場についてどのような形で設けることが可能か。

(会長) 検体の保存と追跡調査については、全国の状況をみるということでよいか。マススクリーニングの現状について知りたいが、県全体の結果は、個人情報がある程度抜いた状態で出せるのか。

(事務局) 陽性者の報告は、データとして持っている。個人情報を抜いてご提示できる。

(会長) 年に1回、県全体の状況を個人情報に配慮しながら報告していただきたいと思う。報告が上がってくるのは適宜上がってくるのか。令和2年度の分はある程度把握できているのか。

(事務局) 速報で適宜上がってくる。令和2年度分も把握できている。

(会長) 令和2年度分は、次回第2回周産期協議会で報告いただき、今後については、前年度の報告を第1回目の協議会で1年分まとめて出していただくということでしょうか。

(事務局) 資料としてまとめさせていただく。

(オブザーバー) 資料に付け加える内容があれば、その時に報告させていただく。

### (4) その他

(委員) 妊娠届が少なかったということで危惧していた。令和2年度の出生数は変わらなかったが、令和3年度は減るのではないかと予想している。現場の産婦人科の先生方の印象や、妊娠届の出方はどうなのか。2ヶ月の子どもたちの予防接種が、コロナ前より減っているのか、出生数が減っているのではないかと。また、徳島県の妊婦さんのコロナ感染者の実態と経過、生まれてきた子どもへの影響が分かればまとめていただきたい。

(事務局)妊娠届の調査が厚労省から3ヶ月ごとに来ている。本県に関しては、月ごとではらつきはあるが、大幅な減少は把握していない。

(委員)日本では婚姻届と分娩数が比例しているが、それが5.1%減ったとデータが出ている。今年度、出生数が80万人を切ると予想が出ている。本来、2039年に75万人を切ると予測されていたが、18年も早くなる可能性がでてきた。

(会長)現実には、日本全国の出生数が落ちているようなので、徳島県もそれに平行して落ちているのではないかと思う。今の所はまだ、きちんとしたデータが出てないのだろうが、多分落ちているのではないかと想定している。

(委員)妊娠中のコロナの不安についてはどうか。

(委員)昨年日本産婦人科医会がアンケートを取っているが、外出や通勤に不安があるなど、60%が不安があると答えている。両親学級、立ち会い分娩ができていないということに関しても不安を持って出産されている方も多かったと思う。うつが発症が増えたなどの詳しいデータは出ていない。

(委員)立ち会いの制限はよく聞くが、コロナの状態では立ち会いは制限という考えでよいか。

(委員)病院の規模にもよると思う。

(委員)先日、産科セミナーでの報告にかかりアンケート調査を行った。半分ほどの施設が立ち会い分娩中止、その他半分の施設は制限しながら何らかの形で行っている状況。感染状況によると、施設の立ち位置があるので、今後変化していくと思う。

(会長)市町村保健師連絡協議会から、妊婦や授乳中の産婦に、ワクチン接種の胎児への影響や抗体獲得に関する影響、授乳中にワクチン接種していいのかという質問に対し、どのように答えたらよいかと質問があった。何か答えをいただけるか。

(委員)1月に日本産婦人科感染症学会が提言を出しているが、短期的データでは影響がないだろうが、中長期はデータが出ていないため、不明であるということ、しっかり説明して、妊婦さんにワクチン接種をするかどうか聞く。赤ちゃんにはワクチンは影響しないとの報告が多い。12週未満まではワクチン接種は避ける。痛みがある時はアセトアミノフェンを使う。家庭内感染が60%~70%なので、妊婦さんが接種しない時は、家族に接種してもらおう。

(会長)長期的にはデータがないのは仕方がないことだが、短期的には影響がないこと。是非、強調しておいて欲しいことは風評被害、SNSなどで拡散されている、ワクチンで

不妊になる、遺伝子に影響があるということはないと保健師さんから強調して欲しい。

(事務局) 教えていただいたことを、保健師連絡協議会に返らせていただきたいと思います。

(会長) 大学からのお願いだが、医学科5年生が、中高生50～60人に対して産後うつの啓発活動を行っている。講演会などをしながら、産後うつの対応を若い方に知ってもらう一環として、保健師さんや産婦人科の先生が産後うつ対応についてどのように考えているか、アンケートをお願いしたい。学生が自発的にやっているので、ご協力をお願いしたい。

(委員) 妊婦ワクチンに関して、12週以前の縛りが、6月17日の通達でなくなっていたと思う。

(委員) 感染症学会から改訂が出たときも、器官形成期は避けると出ていた。

(委員) 予防接種の会場でも話題になったのだが、先進国のリサーチでワクチンを打つことによる先天異常と自然発生の先天異常の増加がないので、ワクチンを打つメリットの方が多いと文書に記載があった。

(委員) 流産の因果関係やトラブルも生じる可能性がある。無理に12週未満にする必要はないとも思う。

(委員) 基本12週以降にワクチン接種している。

(会長) ワクチンの接種時期については、調べることにする。

毎年 HTLV-1 の講演会を日本大学の早川智先生にオンラインでもいいので開催していただきたいと考える。産婦人科感染症学会のコロナワクチンの担当をしているのも早川先生なので、依頼したい。はっきりするまでは12週未満の接種は考えなければいけないと思う。

(事務局) 厚生労働省の新型コロナワクチン Q&A で、妊娠を計画中の方は接種後の長期避妊は必要ないが、可能であれば妊娠前に接種を受けるようにし、器官形成期である12週までは接種を避けていただくこととしていますと現在はなっている。順次更新はされると思うが、新しい情報があればお願いしたい。

(委員) 周産期学会の講演会で、早川先生が12週未満の撤廃や、積極的な妊婦への接種の呼びかけなど、6月17日に改訂の提言がされているようだ。今はどんどん変わっているので、こまめにアップデートしないと、こちらも追いついていけない。早く話していただいたら現場の混乱も避けられると思う。

(会長) 新生児マスキングの講演も併せてできればいいと思う。

(委員) 4月1日に法定化された産後ケアが、十分受けられていないお母さん方がおられる。市町村によって差があるが、県の方からもっと推進していただきたい。県の育児応援クーポンについて、昨年からロタウイルスのワクチン接種に使われてたことが多かったと思うが、定期接種になったので、今はどの程度クーポンが使われているのか。今後、産後1年以内の手厚い支援が必要だと思う。クーポンは所得制限があるようなので、それを無くし、全ての子育て中の家庭に発行して欲しいと思う。病院で十分なケアを受けられないまま退院している方も多いため、地域で活動している助産師がより手厚い支援を行えたらと思う。

(事務局)産後ケアについて、市町村の取り組みを一覧にまとめて県で把握している。推進についても各保健所、各協議会等で研修を行い、推進していきたい。在宅クーポンについては、次世代育成・青少年課が発行している。一部市町村においても、このクーポンで産後ケア事業が使える。活用状況等についてお調べし回答させていただきたい。